

空自女性リクルーターが後輩に自衛隊を説明



自衛隊静岡地方協力本部浜松出張所（所長・有吉将人1等空尉）は6月17日（火）、静岡文化芸術大学（浜松市）でマンツーマンの自衛隊説明会を行った。

これは大学から、空自に興味のある3年生の学生に説明を行ってほしいとの依頼を受けたもので、同大学の卒業生で現在は航空幕僚監部総務部総務課（東京都新宿区）で勤務している阿部恵子1等空曹がリクルーターとして参加した。

阿部1曹は、学生と同じ国際文化学科で学んでいた自身の大学時代や自衛官を志したきっかけなどを和やかに話し、入隊後のキャリアや現在の仕事内容、得意の英語を生かして海外訓練に参加した経験などを伝えた。

学生は「入隊前の不安はありましたか」「訓練は女性でも大丈夫ですか」といった質問を投げかけ、また「海外訓練で通訳できるなんてかっこいい」と阿部1曹の仕事内容にも興味を示していた。

説明会は当初の予定を大きく上回る2時間に及び、2人はお互いの連絡先を交換するなどすっかり意気投合していた。

浜松所は、今後も希望者のニーズに合った懇切丁寧な説明ができるよう、リクルーターと協力し広報活動に努めていく。

海自最新型潜水艦「たいげい」が静岡県初入港 特別公開を実施



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は5月23日（金）から25日（日）まで、清水港袖師第1埠頭（静岡市）で海上自衛隊試験潜水艦「たいげい」の特別公開を行った。

「たいげい」は令和4年に就役した海自最新型の潜水艦で、令和6年3月に、開発中の装備を試験する「試験潜水艦」に艦種変更された。同艦が静岡県に入港するのは初めて。

特別公開は、上甲板見学と艦内見学の2種類を行い、自衛隊に興味のある中・高・大学生と保護者など280人が参加した。

参加者は、まず岸壁から「たいげい」の外観を見学し、乗員から潜望鏡や潜舵などについて説明を受けた。

上甲板見学では、岸壁から掛けられた棧橋を渡って潜水艦の上甲板に乗り、船体を覆う真っ黒なゴムのタイヤに触ったり、艦内への入り口や通話用電話装置などを見学したりした。また、自衛隊で号令などに使われる信号らっぱの体験も行われ、挑戦した参加者は首を出す難しさを体感していた。

艦内見学では、艦長が指示を出す発令所、発電機のある機械室、魚雷発射管室、食堂、隊員の居住区を見学した。

発令所には、艦の航行や管制のための装置が並んでおり、乗員から「ディスプレイはタッチパネルになっていて、どの席からでも情報を共有できます」「舵や潜望鏡は（操縦桿のような）スティックで操作します」といった説明を聞いた。参加者は実際にディスプレイやスティックに触れ、最新型潜水艦の性能に理解を深めていた。

静岡地本は、今後も艦艇見学を通して海上自衛隊の幅広い仕事をPRしていく。